



【問い合わせ先】

釜石海上保安部
交通課長 佐藤 学
電話：0193-22-3830

令和5年1月6日
釜石海上保安部

令和4年における岩手県内の海難発生状況（速報値）

1 船舶海難の発生状況

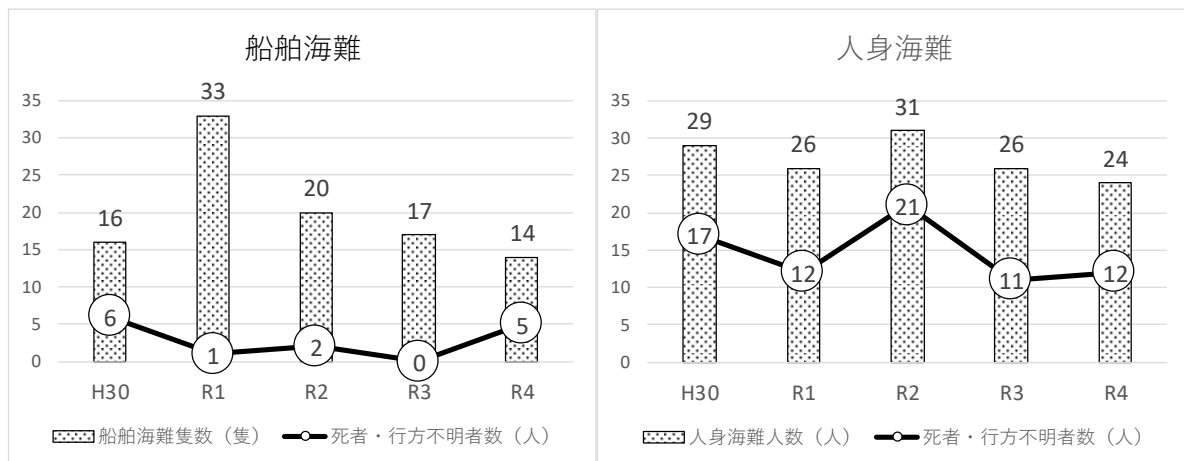
- (1) 船舶海難は14隻で前年に比べ3隻減少
- (2) 船舶海難に伴う死者・行方不明者数は5人で前年に比べ5人増加

2 人身海難の発生状況

- (1) 人身海難は24人で前年に比べ2人減少
- (2) 人身海難に伴う死者・行方不明者数は12人で前年に比べ1人増加

○岩手県における船舶海難及び人身海難の推移（過去5年）

		H30	R1	R2	R3	R4
船舶	船舶海難隻数(隻)	16	33	20	17	14
	死者・行方不明者数(人)	6	1	2	0	5
人身	人身海難人数(人)	29	26	31	26	24
	死者・行方不明者数(人)	17	12	21	11	12



【船舶海難の特徴】

船舶海難隻数は14隻で、前年に比べて3隻減少し、過去4年（平成30年～令和3年。以下同じ。）の平均値（21.5隻）と比べても減少している。

船舶用途別では、漁船が10隻と最も多く全体の約7割を占めており、漁船事故が少なかった前年（6隻）に比べて4隻増加し、過去4年の平均値（13.3隻）と比べると減少している。

海難種類別では、転覆が4隻と最も多くなっている。転覆した4隻はいずれも漁船等の小型船舶であり、内3隻に乗船していた5人が死亡し、死者・行方不明者数は令和元年以降で最多となっている。

【人身海難の特徴】

人身海難人数は24人で、前年に比べて2人減少し、過去4年の平均値（28人）と比べても減少している。

人身海難に伴う死者・行方不明者数は12人で、前年に比べて1人増加し、過去4年の平均値（15.3人）と比べると減少している。

活動形態別にみると、マリンレジャー活動中の海浜事故数が2人と、前年（9人）に比べて7人減少し、過去4年の平均値（5.3人）に比べても減少している。

マリンレジャー活動中の海浜事故の活動内訳は、釣り中が2人となっている。

【海難防止対策】

岩手県においては、船舶海難では依然として漁船の占める割合が高く、死者・行方不明者数も多くなっている。また、漁労中の負傷事故も多いことから、釜石海上保安部では、引き続き訪船指導や海難防止講習会等を通じて漁業者の方々の安全意識向上に向けた取り組みを継続していくこととしています。

また、釣り中に防波堤等から海中転落する事故が後を絶たないことから、港湾管理者等の関係者と連携し、立ち入りが禁止された防波堤等の危険個所へ立ち入らないよう現場指導を行い、「救命胴衣の常時着用」、「複数名での行動」、「携帯電話等の連絡手段の確保」、「118番の活用」等、自らの命を守るための行動について呼びかけを継続していくこととしています。